

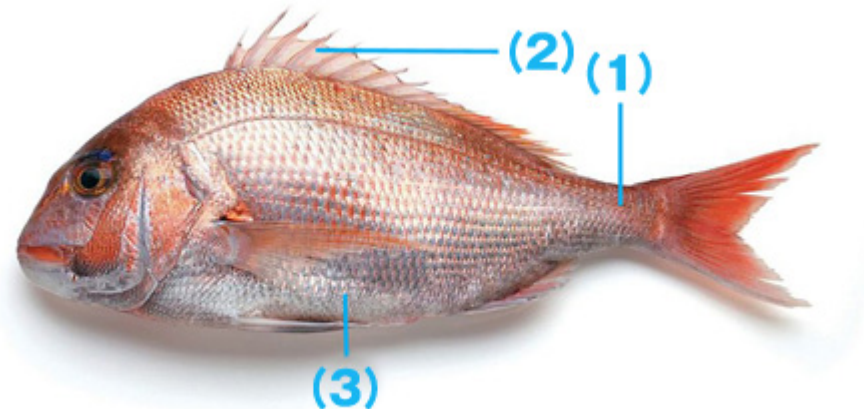
天然と養殖の見分け方

～天然は色白ナイスバディ、養殖は色黒メタボ～

天然と養殖の差は、魚の良しあしを見る基準になるのだろうか。「年々養殖技術が進み、味に対する評価も高まっています。値段も手ごろだし、例えば、産卵後の痩せた天然魚よりは脂の乗った養殖魚のほうがうまい、といった場合もある。だからこそ、使い分けのためにも、両者を判別する目を養って損はありません」。天然と養殖を区別するには、どこを見ればいいのか。真鯛を例に、小川さんに説明してもらった。（築地魚河岸三代目 小川貢一さん）

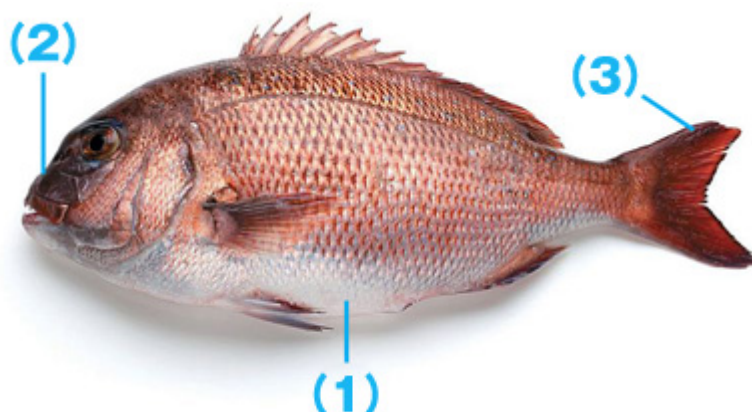
「全体的に天然物はスマートで均整のとれたスタイル。潮流の緩やかな狭い養殖場で育った鯛は、ずんぐりとしたメタボ体形です。ヒレが長くずっと伸びている天然物に対し、養殖魚のヒレは魚同士でぶつかることが多いため、短く汚れています。また、養殖魚は水深が浅い場所にいる時間が長いので全身が日に焼け、黒ずんで見える。見分けは、意外に簡単なんですよ。」

天然鯛 Natural Sea Bream



- (1) 程よく引き締まった“ナイスバディ” --- 身が引き締まり、筋肉質ながらもスマートなもの。泳ぐのが速そうに見えるのが天然物の特徴。
- (2) 体の色は艶のある淡いピンク色 --- 輝きのある澄んだピンク色。活け造りなどの場合は、きれいに見える天然物が人気。
- (3) ヒレが長くピンと立っている --- 背ビレ、尾ビレともに美しく立派に見える。広い範囲を泳ぐ天然物ならではの特徴だ。

養殖鯛 Culutivated Sea Bream



- (1) フォアグラ状態なので“メタボ体形” --- エサを短期間に集中して与えるためにメタボ体形になりやすい。運動不足なもの、肥える一因。
- (2) 日焼けのため 全身が黒っぽい --- 水深が浅い養殖場では直射日光を浴びやすいため、魚が日焼けする。体表が全体的に黒っぽい。
- (3) ヒレが短く汚れて見える --- 養殖場ではたくさんの鯛を同時に育てるため、魚同士の接触が不可避。ヒレが傷みやすく、傷も多い。

以上が、見分け方のポイントですが、最近では、養殖と分からないように覆いをかけて育てる方法もあるそうです。日焼けしないので、全身、綺麗なピンク色になるのです！

どうやら、見分けるには、益々、眼力が必要なようですね。

出典：「買っていい食材&おいしい料理 一目瞭然図鑑」（日経 BP 社）

Photo : Mukasa Yusuke

U R L : <http://trendy.nikkeibp.co.jp/article/lcs/20090818/1028344/?P=6>